白神トピックス

青年農業者の情熱と協同の力を結集する　ＪＡあきた白神青年部

ＪＡあきた白神青年部（熊谷孝部長）は４月８日に第17回通常総会を開催し、平成26年度事業報告や27年度計画、役員改選について協議しました。

平成27年度計画では、「白神夢大地運動」として青年部員の加入促進による仲間づくりや、次世代へ農業をつなぐために小学生を対象とした田植え、稲刈り体験などを行い地域農業の発展に向けて協力し活動することを決めました。また、役員改選では新部長に池端竜さん（二ツ井支部）が選出され、新たな体制で平成27年度の事業を展開していきます。

部長を除く役員の方々は以下の通りです。

副部長＝佐藤寛郎、山谷清貴、佐藤一樹、戸松治朗
監　事＝大塚裕成、池端伸吾、熊谷剛

▲総会には各地区から20名以上の青年部員が参加

▲最優秀賞に輝いた工藤寿さん

産地強化と有利販売を進める　アスパラガス部会

ＪＡあきた白神アスパラガス部会（山谷清英部会長）は４月14日に総会を開催し、部会員約15名の参加のもと、平成26年度事業報告並びに収支決算など全５議案について協議を行いました。

平成27年度の事業計画については、26年度は病害虫の被害が多かったことから、栽培講習会や現地巡回の開催に力をいれることをはじめ、栽培者同士の情報の共有による技術向上を図り、消費者に選ばれるアスパラガス栽培を行うことなどを盛り込みました。また、株品評会の表彰も行われ最優秀賞には工藤寿さん（久喜沢）が輝きました。

ＪＡ組合長と農水省が意見交換会　ＪＡあきた白神

政府の米政策について、農林水産省生産局幹部と県内15ＪＡの組合長らとの意見交換会が４月21日にＪＡビルで開かれました。

県内ＪＡの組合長や農水省の担当者など約40人が参加し、飼料用米の作付け推進などの米政策について議論が交わされました。出席者からは、米価低迷の対処として作付け誘導に理解をしつつ、政策の補助制度の継続性を不安視する声が多数あがりました。佐藤組合長は「現場で何度も協議や検討を行っているが、農家の所得向上を第一に考えると飼料用米の生産拡大への強化は難しい。補助金もいつまで続くかも不透明で取り組むとしても慎重にならざるを得ない」と述べました。

▲飼料用米の取り組みなどについて意見交換を行った

▲能代工業高校バスケットボール部へ白神米を寄贈

地域一体で能代工業バスケットボール部を応援　ＪＡあきた白神

全国制覇を目指す能代工業高校バスケットボール部を応援しようと、ＪＡと能代市は同部の寮生と下宿生に向けて、１人あたり60kg分の玄米を寄贈しました。

この取り組みは「バスケの街づくり計画」の一環として行われており、平成24年度から始まり今年で４年目となります。贈呈にあたり佐藤組合長は、「日本一を目指しているＪＡあきた白神の農産物の中から白神米を持ってきました。粘り強いあきたこまちのように粘り強く戦って日本一を目指してください」と激励しました。部員代表の川崎玄太マネージャーからは「いただいたお米を全部食べて、全国制覇の力にしたい」と誓ってくれました。

蟹座（6・22～7・22）　縁の下の力持ち的な役割も笑顔で取り組み、サービス精神を発揮しましょう。一気に人気者になれる可能性大